磐梯山噴火實况之圖
同山噴火ハ明治廿一年七月十五日午前八時十分頃突然山崩壊し
蒸気の發揚其實況ハ上の湯即チ小磐梯山の北面
より破裂なせ容易ならざる事件なり此山噴破の為めに山
の形を矢ふに至る五石四方に飛散し大磐梯崩壊し其様
目も當られぬ模様其際人々出よと逃げんと打折しも劇しき
其物音し数百年成長せし松の如きも抜けて空中に飛び其
根の跡より烟を吹出し黒烟天に漲り最も甚しきは上時
頃にて追々静まり午後四時頃に至りて止むいと甚しき音
を発したるは前後二度なりしと云ふ翌十六日午後四時に至りて
噴烟全く止む是れが為め該山の東方三四里余を距てし処
の吾妻山岳等の西面まで一面に灰を被ぶり磐梯山の東面へ
悉皆焼石灰のみ青木草木は稀に残りて木は葉なく
枝なく幹のミ其外潰家埋家親子兄弟或は埋められ或々
破のれ手足体をも所を異にし馬は七八十頭死亡せり就中秋
山村ハ一ヶ村残らず埋まり一人も助かりし者なく其他森林は壁
し到ると実に被害甚しく見禰村も漏れず焼失し其近傍へ
一円石と灰を降らし五寸より一尺嵩も積れり大小の河
流ハ源を塞ぎて通せす為めに満水の所もあり其飛散せし
石塊ハ皆泥の如くにして硫黄の気山の林藪数里の間大木巨石
と押出し烟々数ヶ所より発し悪臭気鼻を突き河西
河東と称する数ケ村恰かも灰世界の形ちを現出せりといふ
其災害のあらましを爰に記す
右死亡負傷人員凡左の如し
総計七百四十六人余
内死亡 男四百五人余 女二百九十七人余
内浴客五百十八人
内死亡 男二百八十二人 女百九十二人 負傷 男三十四人
明治廿一年七月廿二日印刷 同年同月廿四日出版
著作印刷兼発行者
岡田松之助
猪苗代湖
若松
梅堂國政写
磐梯山噴火顛末